町内会活動の維持・発展について

市民クラブ
是枝　貴裕

問 町内会は親睦と交流を通じて連帯感を深め、相互扶助はもとより見守りや防犯・防災対策及び環境保全活動等地域の安全・安心な暮らしに大きな役割を果たしています。そのため、本市においても町内会活動の発展や身近な課題の解決に向け「地域コミュニティ活動支援事業」による側面支援を行っているところですが近年は役員の担い手不足や加入者の減少等もあり、従来の活動もままならないとする町内会も少なくなく、運営はおろか維持も難しいという声も一部で聞かれます。

こういった現状を踏まえ、時代背景やライフスタイルの変化等により町内会の活動さらには存続も憂慮される事態に鑑み、今後の地域コミュニティの確保を含め、どのように対応していくか考察をより深めるべきと思いますが、これら市の考えについて伺います。

答 町内会は自主的に組織し活動する任意団体ではありますが、会員相互の親睦や地域内の環境整備・防犯・防火・交通安全等の活動及び高齢者や子どもを見守る取組み等を展開し、住みよいまちづくりを進める上で欠かせない役割を果たしていると認識しています。このことから、現行の支援事業を推進しつつ、現在、介護福祉課と社会福祉協議会により町内会長及び役員からの聞き取り調査を行っているところであり、各町内会の課題やニーズの一層の把握に努めるとともに、他自治体の優良事例等を注視しながら加入率の向上つながる支援を検討していきます。



宮川中央団地町内会で行われた「みやかわマルシェ（食品等の販売）」の様子

新たな防災気象情報による避難体制について

公正会・市民の声連合
武田　真

問 線状降水帯による大雨が全国で多発しています。本市では昭和56年洪水や平成28年豪雨の教訓を有しており、特に平成28年には内水氾濫リスクが急上昇しました。新たな防災気象情報では警戒レベル3で高齢者等避難が求められており、避難時間の確保が課題です。

そこで市内の洪水・内水氾濫リスクをどう認識しているのか、高齢者等の避難完了に必要な時間をどう見積もり、伝達に反映させるのか伺います。

答 近年、全国各地で線状降水帯による大雨が頻発し、想定を超える降水量を記録している現状から、本市における洪水・内水氾濫は重大なリスクと認識しています。洪水がいつ発生してもおかしくない基準に、3時間程度で到達する予測がなされたとき、警戒レベル4危険警報が発表されることから、高齢者等避難については4時間前の発令を考えています。

伝達手段については、広報車やホームページ等を活用し、迅速かつ正確な情報伝達に努めます。

洪水時の避難経路について

問 避難経路の所要時間・危険箇所の確認等、実践的な検証をしていく考えについて伺います。

答 令和8年度、気象防災アドバイザーによる防災講話や、避難経路の時間測定も行いました。

今後、自主防災組織等に実践的な検証の取組みについて提案し、地域防災力の向上と市民の防災意識の向上に努めます。



2016.8.20パンケ歌志内川

砂川市立病院について

公正会・市民の声連合
小黒　弘

問 砂川市内の開業医は大きく減少しています。また、これまであった地域包括ケア病棟も廃止され、今後とも、これまで担ってきた「市民のための市立病院」の役割を続けられるのか伺います。

答 新病院開院以来、高度急性期・急性期医療の拠点病院として、救急医療および高度な専門医療と一般診療を担ってきました。

今後の医療再編においても、こうした基幹的な役割を基本とする方向性に大きく変わりはないものと考えています。

問 高度急性期・急性期医療に特化した市立病院となれば、多くの医療人材、そして高度な医療機器を備えなければなりません。

しかし、コロナ禍以降、病院経営は非常に厳しくなっています。

そのような状況の中、人口1万5千人弱の砂川市が市立病院を支えられるのか伺います。

答 砂川市のような人口規模の自治体が単独で、高度な医療機能等を将来にわたって維持していくことには、大きな課題があると認識しており、地域全体で医療機能を補完し支え合う体制へ転換していくことが必要で、そのための一つの手段として進めているのが「地域医療連携推進法人」の設立です。

このように、中空知圏域全体で機能を分担し合う仕組みを活用しながら、市立病院自らが経営の効率化と工夫を重ねていくことが、厳しい環境下においても病院を将来にわたって維持していくための重要な取組みであると考えています。



砂川市立病院

道の駅設置可能性について

創生会
伊藤　俊喜

問 全国には1千231の道の駅が登録されています。このうち、高速道路のハイウェイオアシスに併設する形で登録された道の駅が10カ所以上ありますが、北海道にはまだ1つもありません。ハイウェイオアシスに道の駅が登録されるならば、砂川市の持つ価値や魅力の更なる発信につながるものと考えますが、市の見解を伺います。

答 国土交通省が定める基準をクリアすることが前提となり、そのためには24時間化に向けた既存施設、事業者との調整のほか、施設内の人的警備、清掃、運営体制の確保の課題などがあります。

問 一般的に新しく道の駅を作る場合、交通量を調査して場所を選定し、広大な土地を用意して建物を建設して、その建物を運営する事業者を選定して魅力ある商品を揃えて運営していく一連のプロセスが必要です。

しかし、砂川市の場合はほとんど条件が揃っていて、すでに35年以上も続けている砂川ハイウェイオアシスがあります。道の駅を作り上げるのに10のプロセスが必要ならば、すでに8か9くらいまでは揃っている状況です。大きな投資をしなくても道の駅という名前のスパイスを足してあげれば効果を発揮すると思いますが、設置に向けた可能性について伺います。

答 ハイウェイオアシスに道の駅が実現できれば砂川市に新たな付加価値ができるものと考えます。

課題はありますが、解決が可能なのか、1つ1つ調査をしていきたいと考えています。

